

平成27年度福島県立図書館協議会会議録

○ 日 時 平成27年12月4日(金)
午前10時30分～午後12時25分

○ 場 所 福島県立図書館 「第1研修室」

○ 出席委員 加藤 卓哉
 鎌田 喜之
 杉内 聰恵
 千葉 養伍
 土田 節子
 矢吹 貴美
 山崎 由美
 横山 秀人
 渡辺 峰子

○ 教育庁社会教育課 課長 佐川正人
 主幹(兼)副課長 秋山和則

| | | |
|---------|---------------|--------|
| ○ 県立図書館 | 館長 | 玉井 章 |
| | 副館長 | 石幡 敦 |
| | 主幹(兼)企画管理部長 | 蛭田 隆 |
| | 資料情報サービス部長 | 大沼 武彦 |
| | 企画管理部主査 | 佐藤 めぐみ |
| | 〃 専門司書 | 吉田 和紀 |
| | 資料情報サービス部専門司書 | 大崎 眞希子 |
| | 〃 専門司書 | 原 馨 |
| | 〃 専門司書 | 佐藤 加与子 |
| | 〃 専門司書 | 菅野 由美 |

1 開 会

企画管理部長(以下「企画部長」。)の進行により開会。

2 館長あいさつ及び委員自己紹介、図書館職員等紹介

(略)

3 議 事

(1) 福島県立図書館協議会会長及び副会長の選出について

① 仮議長選出

司会（企画部長）が、「福島県立図書館協議会に関する条例」第4条第1項の規定により、「協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める」と規定されているが、今回は委員改選後最初の協議会につき、会長選出までの間、館長が暫時仮議長を務めることを確認した。

② 会議成立確認

仮議長（館長）が、協議会に関する条例第5条第2項の規定により、会議は委員の過半数の出席が成立要件であり、委員10名のうち9名が出席されていることから、会議は有効に成立していることを報告した。

③ 会長及び副会長選出

仮議長が、会長及び副会長選出について諮ったところ、事務局案説明の声により、事務局（副館長）が、会長に千葉委員、副会長に土田委員をお願いしてはいかがかと発言した。

委員全員の賛成により承認された。

④ 会長就任あいさつ

議長を交替し、千葉会長が就任のあいさつを述べた。

(2) 議事録署名人の選出

議長が、議事録署名人の選出については議長指名でよいか諮り、「異議なし」を確認し、矢吹委員及び杉内委員を選任した。

(3) 報告事項① 福島県立図書館の概要について

事務局（副館長）が「福島県立図書館要覧2015」に基づき説明。

報告事項② 平成27年度図書館利用実績について（4月～10月）

事務局（資料情報サービス部長。以下「資料部長」。）が資料2に基づき説明。

その後意見を求めた。

土田副会長 震災から4～5年経って利用者が震災前と比較して7割～8割となっている。さきほど地理的な問題もあると説明があったが、そういうような検討は必要だと思うが、相互貸借の利用が戻っているということは県立の使命を果たしていると思う。

貸出冊数を分野別で見ると、地域資料や新聞雑誌が他の分野より多いことは県立ならではであると思う。

地元新聞の原発関連記事の見出一覧の作成は今後も続けてほしい。地元の記事をもっと首都圏など図書館から外に向けて情報発信してほしい。

福島県立図書館要覧の表18、19にあるデジタル資料は購入したものか図書館で作成したものか。

資料部長 ここに記載してあるデジタル資料のほとんどは、図書館で作成したもの。

土田副会長 歴史資料をデジタル化して将来に残すなど、県立ですべきことだと思うので継続してほしい。

資料部長 貴重資料のデジタル化は計画的に行っていきたい。

加藤委員 入館者数が震災前の状態に戻らないのはどう考えているのか。

資料部長 こちらの推測ではあるが、何らかの原因で図書館から離れていった方が戻ってこない、図書資料購入費が減っているなどが考えられる。

今年度については、空調工事の騒音などの影響もあると思われる。

加藤委員 震災の後、県民の心の余裕が無くなつて、本を読まなくなつたと言われている。スマートフォンの普及の影響などもあると思う。

震災から5年経つので、入館者が減った要因をもうすこし分析して対応してもらいたい。

入館者が減っているのは県立だけなのか、公共図書館全体の話ならば、県立がリーダーシップをとって調査をして、県民の文化の向上のためにやってほしい。

渡辺委員 県内の図書館の状況は入館者数は下がっている。震災前までに戻すには苦戦している。

県立では復興関係の資料を集めているが、震災関係の調査相談の状況はどうか。

一時より減ってはいるが、震災関係の調査相談はまだある。

資料部長 昨年10月に、他館の利用者数や貸出冊数の状況について調査した。

調査の結果は全国的に横ばいの傾向であった。

当館の中できちんと対応することが大事と考え、情報発信やにぎわいづくりのための企画に取り組んでいる。

土田副会長 評価は利用者等の数字だけでなく、県立でしかできない仕事を評価し、もっとアピールしてはどうか。

統計を震災前の数字と比較しているが、それが良いのかということもある。

数字に一喜一憂するのではなく、他のところも評価して今後もこの調子でがんばってほしい。

加藤委員 数字が一人歩きをするのは良くないと思っているが、数字を踏まえて満足度をどうやって計っていくのか、資料購入費用の確保はどうするのかな

どを考えてはどうか。

県立図書館にはウォシュレットのトイレがないのかという声をよく聞く。

県民が利用するのだから、図書館の満足度を上げるには、トイレをウォシュレットに改修するなどの環境整備も必要である。

土田副会長 入館者数には、講演会に来た人数も入っているのか。

資料部長 当館入口にカウンターがあるので、そこを通った人はカウントされるので、講演会などに来た人も含まれている。

土田副会長 入館者数や本の貸出数だけでなく、講演会などの参加者数や企画がどういうふうに県民に反映されているかを評価したらしいと思う。

(4) 協議事項①「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」の取組状況について
事務局（企画部長）が資料3に基づき説明。

その後意見を求めた。

鎌田委員 アクションプランI-1にある「震災の記録をのこします」に関して、ライブラリーの図書を充実するということについて、復興ライブラリーの予算は別枠なのか。ライブラリーを充実すると一般図書の予算が減ってしまうのか。

今年も震災関係の企画展示をしているようだが、来年は震災から5年目になるので、県立図書館でしか見られないものを県内外に持つて行って展示するなど発信力も必要だと思う。

企画部長 震災関係の図書購入予算は別枠。国費で別途措置されている。

館長 県外での展示、情報発信については、広報を強化して展示をしたいという団体などを増やしていくみたいと考えている。

要覧の17ページにあるように、当館の展示企画で「東日本大震災5年展」を国会図書館のパネルを借りたりして2月に実施する。

横山委員 企画展示をここに来て見られない人もいるので、動画などで見られるようにしてほしい。近くの人はそれを見て来館するきっかけにもなるのではないか。

ホームページについて、スマートフォンでは見づらい部分もあるので改善してほしい。

先日資料宅配サービスを利用して大変便利だった。ただ、機械的に届くのでさびしい感じがする。新しいサービスとして、相互貸借と資料宅配を統合したサービスをしてはどうか。県立から借りたい本をパソコンで選んで受け取りを避難先の図書館にして避難先の図書館のカードでそれを借りられるようにするというもの。受取先にした図書館の利用にもつながるし、送料がかからずに利用できる。

本の内容を紹介したPOPをつくってみてはどうか。

企画棚などのコーナーを作つて高校生や民間の図書グループなどの利用を含めた企画を取り入れてみてはどうか。

館 長 動画の提供については厳しいと考えている。

ここに来て見てほしいので、新聞、市・県の広報誌、リビング福島、シティ情報などを利用して紙媒体の広報に力を入れている。

資料を他の図書館で受け取る方法としては相互貸借があるが、利用者が受取館を指定できるシステムづくりを現在進めている。協力していただく図書館との調整をしながら進めていきたい。

企画棚については、長田文庫を始め現在所蔵している特殊文庫の資料を今後どのように見ていただくかを検討している。その中で併せて考えていきたい。

土田副会長 POPは読んだ利用者に書いてもらうなど、利用者に積極的に参加してもらうのもよい。

学校図書館の司書教諭等への支援を続けてほしい。

生徒への指導なども行うと図書館の利用者拡大につながると思う。

現在の図書館職員の傾向として、専任の司書職員が少なくなったり、民間の人材が入ってきたりしている。

これは県立ではなく、もっと大きなところで考えることかもしれないが、民間からの職員を含めての司書研修や司書養成が必要だと思う。

山崎委員 利用者数の推移に関して、図書館の歴史が86年で世代毎に利用状況が変わっていると思うので、どのような年代の人がどのように利用しているかなどの分析をしてみてはどうか。

今の図書館は民間に広く開かれたものになっていくべきだと思う。

閉架と開架、開架と研修をつなぐようなことを考えていくと良いと思うので、今後の展示企画の方法などに期待している。

入口を入つてすぐ左の展示ケースは平積みになつていてのぞき込まないと見づらい部分もある。本や本の裏側をアップした資料を手元に置くとか、関係する本を近くに置くとかする工夫が必要だと思う。

矢吹委員 子どもの読書のことで、赤ちゃんに本を贈るブックスタート事業があるが続けている市町村は少ない。県教育庁と連携して0歳からの本の情報発信をしてほしい。

土田副会長 母子手帳と本と一緒にプレゼントしているところもある。

子どものうちから本とつながる事業など、リードしてほしい。

矢吹委員 ブックスタートは子どもの読書活動にもつながり、ゆくゆくは図書館の利用者増にもつながると思う。

館 長 予算が関係するので難しいが、声をあげていかなければいけないと思っている。

(5) その他

土田副会長 今日、いただいたポストカードのように、所蔵資料を活用してグッズを作って提供するなど、図書館にしかないものをアピールしてはどうか。

矢吹委員 福島県立図書館にしかない貴重な資料が実物で見られるなどのアピールの仕方もあると思う。

千葉会長 震災関係の資料の活用などのいろいろな課題、運営のアイディアもあつたので、検討して今後の図書館運営を考えていきたいと思う。

館 長 本日いただいたご意見について、取り組めるものから速やかに取り組んでいきたい。

協議会会報により委員の方には情報提供をしているので、今後も意見をいただきたい。

最後に企画部長が、議事録署名人に選任された委員に対してご確認、ご署名依頼をした。

4 閉 会